

令和3年度 京都市事務事業評価委員会

日時 令和3年12月22日（水）

14:00～17:00

場所 京都市役所

次 第

1 開 会

2 議 題

公共施設の今後のあり方について

（対象施設）

所管局	所管部署	施設名
総合企画局	総合政策室 大学政策担当	大学のまち交流センター（キャンパスプラザ京都）
	国際交流・共生推進室	京都市国際交流会館（kokoka）
産業観光局	観光MICE推進室	宇多野ユースホステル
保健福祉局	健康長寿のまち・京都推進室 健康長寿企画課	健康増進センター（ヘルスピア21）
建設局	都市整備部市街地整備課	ラクト健康・文化館
教育委員会事務局	生涯学習部施設運営担当	図書館（電子図書館の導入）
	生徒指導課	奥志摩みさきの家
	学校指導課	幼稚園

3 閉 会

公共施設を対象として取り上げた趣旨

1 公共施設を対象として取り上げた背景

高度経済成長期の人口増加を背景に、昭和40～50年代に多数の公共施設が建設されたが、老朽化の進行、更新時期の集中が課題となっている。また、人口減少や民間事業者によるサービス提供の質・量の充実、デジタル化など、公共施設が提供するサービスの前提となる社会環境は変化している。

今後、将来にわたって公共サービスを維持・向上させるため、適切な時期に改修・更新を行い、長寿命化を図るとともに、複合化・集約化・民間活力の導入などにより、保有量を持続可能なものとする必要がある。

2 取り上げた施設

令和3年8月に策定した「行財政改革計画」においては、今後、建替えや高額な対策費用が見込まれる施設や社会構造の変化、民間等の類似施設の充実を踏まえ、施設のあり方を見直す必要性の高い施設から検討を進めていくこととしており、今回、その例示として対象施設を選定した。

3 検討の視点

施設が持つ「機能」が今日においても必要か、現在の規模・立地でなければその「機能」を果たせないか検証を行うとともに、民間によるサービスの充実やICT技術の進歩等も踏まえ、時代に即した新たな魅力を備えた持続可能な施設のあり方を検討する。